

2学期始業式のことば

2学期がはじまりました！最近のニュースでは「藤井聡太二冠(18)が、最年少二冠・八段昇段！」等、若者に係わる明るい話題がありましたが、水難事故や交通事故など、命に関わる報道もありました。まずは、今日、皆さんの元気な姿が見られて、とても嬉しく思っています。短い夏休みでしたが、皆さんの中には、ゆっくり休めた人、有意義に過ごせた人、塾や勉強ばかりだった人、逆に宿題が全くできなかった人、色々事情があった人等さまざまだったと思います。生活のサイクルを徐々に取り戻していきましょう。

さて、今年の4月！イギリスのエリザベス女王が、国民へのスピーチの最後に「We will meet again!」と呼びかけ、多くの英国国民が涙したと聞きました。「We will meet again.」には、「また会いましょう」ではなく、「私たちは再び会います!」という強い意志を感じます。コロナの影響で、人々の接触が制限され、SNSやオンラインで連絡をとることはできましたが、オンライン上の「つながり」は、人の「会う」とは違うということが、授業再開時の皆さんの歓喜の様子から、十分理解することができました。良きにつけ悪きにつけ、教育は「会う」ことなしに成り立たないと確信したところです。

2学期は、体育大会や文化祭など多くの行事があります。そのような活動の中では、「物理的な距離を示すソーシャルディスタンス」ともう一つ、「人と人との心のソーシャルディスタンス」の習得が必須になります。それが「会う」ことの意義であり、「共生」の基本的姿勢であり、教育の重要な価値の一つだと思っています。

最後に、学級、学年、部活動等、よいスタートを切るための「魔法の言葉」を伝えたいと思います。それは「オアシス(ス)」です。オは「おはようございます」アは「ありがとうございます」シは「失礼します(さようならの意味もある)」スは「すみません」という挨拶です。また、「オアシス」の「ス」に、もう一つ「スマイル」を加えると更に効果的です。挨拶を交わすことは、人の心を開く「最初の鍵」です。例えば人と挨拶をしない一日を想像してみてください。…とてもさみしい1日となってしまいます。

昨年も、「挨拶は国際社会や共生社会の第1歩という」話しをしています。今回は、このオアシスの、「ビギナー」と「エキスパート」について説明します。「ビギナー」は、直接お世話になっている人に対する挨拶です。例えば皆さんの親友、担任、教科担任、部活やクラブ顧問などがそれに当たります。その人に挨拶ができるのは当然です。次に「エキスパート」は、自分が直接お世話になっていない人への挨拶です。…それでは、ちょっと、皆さんに聞いてみたいと思います！「今朝、親友、担任、部活動顧問等に挨拶した人は手を挙げてください」、その人はビギナーになります。次に「今朝、他学年の先生、教務や事務の先生方、地域の人に挨拶をした人は手を挙げて下さい」「いますか？」その人はエキスパートです。「手を全く挙げなかった人はいますか？」その人はチョコちゃんに叱られます。あえて、もう一つ聞きます。「今朝、家族(父母、祖父母、兄妹等)に挨拶した人は手を挙げてください」今朝、家族と挨拶を交わせた人は「人生のプロフェッショナル」と言えます。これは学校とは別に、人にとって、とても重要でコアなものです。皆さんは、「ビギナー」「エキスパート」「プロフェッショナル」、自分がどのレベルかわかりましたか？これからも「挨拶のできる中学生」を目指し、「魔法の言葉」で2学期をスタートさせてください。